

## 棚田と民俗 人々のくらしと棚田

8月5日(日)14:00スタート 三越劇場(日本橋三越本店) 資料代1000円

棚田は日々の生活の営みとともにある。その長い営みのなかで土地利用の知恵と技術を蓄積し、家々や人々の絆を形成し、祭りや儀礼を継承してきた。こうした知恵・技術や文化は日本人がもった稲と米への強い希求の表れであるといえよう。僅かな土地や山の斜面へも労をいとわず水田を拓き、辛苦のなかで稲作を続けた人々の思いがどこにあるのか、民俗学の視点から棚田を考えてみたい。

戦後の高度経済成長などによって生業形態や価値観が大きく変わった。生活のあり方自体が変化したのであり、このことは当然ながら棚田耕作のありようにも大きな影響を与えた。

変わりつつある棚田と人々のくらしの関わりをみつめなおし、棚田の意味そして棚田を守ることの意義について再確認し、ひいては未来の日本の姿を探る機会としたい。

### 棚田と民俗文化～“日本の原風景”とは何か～

國學院大學文学部・教授 小川 直之

水田稲作は水利用を巡り家々の互助共同を生み、地域社会を統合する大きな絆となってきた。これが「農は人並み」という思想の原点であり、日本社会がもつ保守性の基盤ともいえる。また、稲や米は単なる農作物、食糧ではなく、稲魂が宿り神祭りや王権の源を形成してきた。こうした水田稲作の原理的意味とは別に、棚田地帯は山間地であり、棚田形成の過程では山地の民俗文化を内包してきた。ここに棚田文化の特質をうかがうことができよう。具体例をあげながらこうした視点から「日本の原風景」とは何かを検討したい。



棚田にまつる「田の神」(岐阜県東白川村)



星峠の棚田(新潟県十日町市)

### 棚田のくらしを支えたもの

新潟県立歴史博物館・主任研究員 大柴 和正

棚田の風景が広がる新潟県十日町市松代地区。この地域のくらしは、米の生産のみで成立していたわけではない。春から秋にかけて棚田で米づくりに励んできた人びとは、雪に覆われる冬の間、出稼ぎのために故郷を離れる。県内でも特に出稼ぎ業が盛んなこの地域では、副業として酒造業や土木工事業、焼きいも屋などに従事しながら、棚田と寄り添うくらしが営まれてきた。棚田における稲作とこのような柔軟かつ多様な季節労働との関わりに着目し、豪雪地帯における棚田の生産生業活動の特質を探る。

### 棚田のわざ～福岡県星野を中心に～

別府大学文学部・教授 段上 達雄

福岡県南部の山間部に位置する八女市星野村は谷沿いに広がる地域で、昼夜の温度差に適したお茶の産地として名高いが、同時に棚田が今なお生き続けている地域である。この星野の棚田は石垣積みで造成されており、その石垣築造と修理技術、セマチナオシと呼ばれる棚田の統合拡大技術、石垣築造用具などの棚田技術と、伝統的水田稲作技術など、棚田の“わざ”について報告し、星野村の棚田の地域的特徴について考えてみたい。

1994年・棚田フォトコンテスト入選作品(福岡県星野村)



「椎葉神楽」(宮崎県椎葉村)

### 農村の伝統芸能の行方

東京文化財研究所・名誉研究員 星野 紘

棚田の広がる農山村には、盆踊りや太鼓踊り、あるいは獅子舞などなどの地域の伝統芸能(民俗芸能)が祭礼や年中行事に賑わいをそえて来ましたが、近年の専業農家の激減、集落の人口過疎化、少子高齢化状況の中、それらの後継者不足は益々深刻化しております。これについての各方面の対応策の現状を探りつつ、明日の動向を考える。